人文社会学群

行政政策 学類

Faculty of Administration and Social Sciences

被災地の復興、持続可能な故郷づくり、コミュニティ再生―現代社会が抱える課題のなかで、市民として、職業人として、地域に必要とされる人材を育てます。

学類のホームページはこちら
http://www.ads.fukushima-u.ac.jp/

Admission Policy | こんな人に学んでほしい

行政政策学類では、現代の地域社会が直面している諸課題について、広く学際的な観点から学び、より暮らしやすい健康で文化的な地域社会を作り出すために、卒業までに次の5つの力を身につけたいと考える学生を受け入れます。特に夜間主は、働きながら学ぶ人、さまざまな社会経験をもとに学びたいと考える人を対象とします。

(1) 法・政治・行政・社会・文化などの研究分野に関する基礎的かつ専門的知識
(2) 国・地域・社会における諸課題を自ら発見し、調査・分析する能力
(3) 発見し、調査・分析した諸課題につき、解決する能力
(4) 学際的な創造力で社会に貢献する応用的な能力
(5) 修得した知識・考察した結果を発表し、議論する能力

2019 学類改革のポイント

地域に学び、地域に貢献し、地域とともに歩んできた行政政策学類は、理論知を実践知とする学びを目標に、創設30周年を迎えました。今回の学類改革にあたっては、従来の3専攻を「法・政治・行政などを柱とする学び」と「地域社会・地域文化・言語文化などを柱とする学び」の2コースに再編すると同時に、2コース間の垣根を低く設定し、学際的かつ柔軟な教育を目指します。また夜間主も4分野の学びから行政政策学類の2コースによる学びに再編し、社会人に特化したカリキュラムを提供します。

旧学類構成
- 法学専攻
- 地域と行政専攻
- 社会と文化専攻

人文社会学群
- 現代教養コース
  - 法政策モデル（行政政策学類）
  - コミュニティ共生モデル（行政政策学類）
  - 文化教養モデル（人間発達文化学類）
  - ビジネス探究モデル（経済経営学類）

新しい学類構成
- 地域政策と法コース
- 地域社会と文化コース
- 行政政策学類夜間主（社会人教育）
  地域政策と法コース
  地域社会と文化コース

3セメスターから各コース選択

社会人教育を担う学類へ

取得できる資格

- 中学校教諭一種免許状（社会）
- 高等学校教諭一種免許状（地理歴史・公民）
- 社会教育主事（基礎資格）※1
- 学芸員※2
- 社会福祉主事（任用資格）※3

※1 必要単位を修得し、卒業後1年以上、社会教育主事補としての職に従事することが必要です。
※2 「博物館に関する科目の単位」を修得することが必要です。
※3 必要単位を修得し、卒業後、地方公務員として任用され、福祉事務所などの部署に配属される必要があります。
※ 行政政策学類夜間主では、教員免許状の取得はできません。

卒業後の進路

- 国家公務員（一般職、裁判所職員、国税専門官など）
- 地方公務員（都道府県庁、市町村職員、警察官など）
- 教員（公立学校、私立学校）
- 司法書士・行政書士などの法律専門職（法科大学院進学者を含む）
- 民間企業（建設、製造、運輸、情報通信、金融、医療、専門サービス業など）
- 法人職員（社会福祉法人、商工会議所など）
- NPO/NGOなどのスタッフ
- 大学院進学（福島大学、東北大学など）
- 民間プランナー
- 各種協同組合の職員
- 学芸員（博物館・埋蔵文化財）
- 社会教育関係（公民館）職員
- マスコミ など

カリキュラムの特長

地域課題に取り組む「知と活動の拠点」、行政政策学類。多様な「学びのかたち」で道を切り拓く!

行政政策学類では、理論研究からフィールドワークまで、さまざまな「学びのかたち」を使って、現代社会の課題や、地域が抱える問題の核心に迫ります。1年次には、幅広い教養を学びながら、「大学での学びの基礎（大学生としての基礎力）」を習得します。2年次進学時には、それぞれの関心にしたがってコースを選択します。3、4年次には、教員＋少人数の学生で運営する「専門演習」を基盤に、自分が「解き明かしたい!」「解決策を提案したい!」と思う課題に、より専門的に迫ります。「卒業研究」は4年間の学生生活の総まとめ。斬新で個性あふれる研究成果が期待されています。

※カリキュラムは構想段階（平成30年4月1日現在）であり、科目名などは変更になる可能性があります。

		1年次	2年次	3年次	4年次
学びの目標		行政政策学類における学びの基礎を学ぶ	専門教育の本格的開始 アクティブ・ラーニングの実践	専門知識の応用力・実践力を身につける	専門知識を深めるとともに、大学における研究の成果を示す
基盤教育	接続領域	▪ スタートアップ科目（スタートアップセミナー） ▪ ライフマネジメント科目 ▪ 外国語コミュニケーション科目			
基盤教育	教養領域	▪ 学術基礎科目 ▪ キャリア設計科目 ▪ 健康・運動科目 ▪ 外国語科目　▪ 情報科目	▪ キャリアモデル学習 ▪ インターンシップ		
基盤教育	問題探究領域	▪ 問題探究科目 ▪ 自主学習プログラム ▪ 問題探究セミナーI			

専門演習
専門演習では、より高度で専門的な手法を用いてテーマや課題に迫ります。参加者はより少人数となり、教員も含めそれぞれの学生が、自らの研究テーマをもって演習に参加することが求められます。専門演習での学びを通じて、4年間の学生生活の集大成としての卒業研究をまとめ上げていきます。

専門教育

学類共通科目
- 現代法学論
- 民法　▪ 現代政治論
- 社会学原論
- 社会と文化の理論

問題探究セミナー
第2セメスターの「問題探究セミナーI」から専門的な教育が始まります。問題探究セミナーは、少人数で行う演習形式の授業で、文献購読、討論、実地調査（フィールドワーク）などさまざまな手法で、テーマや課題に迫ります。

コースの選択

地域政策と法コース

学類基礎科目（2コースとも共通の科目群です）
- 憲法　▪ 法社会学
- 公共政策論　▪ 地方行政論
- 社会計画論　▪ 地域社会学
- 社会福祉論　▪ 社会調査論
- 比較地域文化論　▪ 考古学
- 文化史 ほか

コース専門科目
- 地方自治法　▪ 労働法
- 国際政治論　▪ 地方政治論
- 社会保障法　▪ 民事裁判法 ほか

地域社会と文化コース

学類基礎科目（2コースとも共通の科目群です）
- 憲法　▪ 法社会学
- 公共政策論　▪ 地方行政論
- 社会計画論　▪ 地域社会学
- 社会福祉論　▪ 社会調査論
- 比較地域文化論　▪ 考古学
- 文化史 ほか

コース専門科目
- 地域史　▪ ジェンダー論
- 欧米文化論　▪ 地域福祉論
- 社会教育課題研究　▪ メディア論 ほか

問題探究セミナーII・III
- ● 地域政策と法コース型
- ● コース横断学際型
- ● 地域社会と文化コース型

専門演習の選択
- 専門演習
- 専門演習

卒業研究の提出
- → 学士（法学）
- → 学士（社会学）

自由選択領域
自らの興味・関心にしたがって、基盤教育および学類内外の科目から選んで履修する。

アドバイザー教員制度　研究の方法や進路など大学生活全般へのアドバイスを行います。
1年次 …… スタートアップセミナー/問題探究セミナーI 担当教員　2年次 …… 問題探究セミナーII・III担当教員　3年次・4年次 …… 専門演習担当教員

●少人数教育（最大で20名程度）で、授業担当者がアドバイザー教員となります。

学類長メッセージ

学際的に、アクティブに、社会に貢献する人材を

行政政策学類は、法・政治・行政・社会・文化を有機的に総合して課題に迫ることを目指す学類として誕生し、30年が経ちました。今回の改革では3専攻から、「法・政治・行政などを柱とする学び」と、「地域社会・地域文化・言語文化などを柱とする学び」の2コースに再編します。そして、互いの分野を学際的に学び合うことにより、「人権」「地域振興」「福祉」「歴史」「言語文化」など多様なテーマを深めていきます。また、行政機関や地域の人々・団体と協働してフィールドワークを行うなどアクティブ・ラーニングを重視しています。夜間主の学生とともに学び合うのも魅力です。行政政策学類での学びを通じて、社会や地域、さまざまな人々に貢献できる人材として育って欲しいと思います。多くの人々に接しながら、自らの興味関心を伸ばし、自分らしい学びを進めてください。

行政政策学類長　鈴木 典夫 教授

研究テーマ／地域福祉、地域援助技術（コミュニティワーク）

専門演習

法廷教室

教員紹介

※平成30年4月1日現在

浅野 かおる（社会教育論、職業教育・訓練論、教育学）
阿部　浩一（日本中世史、戦国期の地域社会論）
荒木田　岳（地域制度史、地方行政論）
今西　一男（都市計画論、都市社会学、社会調査論）
岩崎由美子（社会計画論、農村社会学、法社会学）
上床　悠（行政法）
垣見　隆禎（行政法、地方自治法）
加藤　眞義（理論社会学、社会学学説史、農村社会学）
金井　光生（憲法、法哲学）
川端　浩平（社会学、カルチュラル・スタディーズ）
菊地　芳朗（考古学による古墳時代社会の復元）
金　炳学（民事手続法）
金　敬雄（言語文化交流論）
久我　和巳（文芸社会学）
切刀　俊洋（日本政治論、地方政治論）
黒崎　輝（国際政治学、国際政治史）
後藤　史子（アメリカ文学、アメリカ学）
阪本　尚文（憲法）
坂本　恵（スコットランド・イギリス文学、現代思想）
佐々木康文（情報化・メディアの発達と社会変動）
塩谷　弘康（法社会学）
清水　晶紀（行政法、環境法）
新藤　雄介（メディア論）
鈴木　典夫（地域福祉、地域援助技術、コミュニティワーク）
鈴木 めぐみ（国際法）
大黒　太郎（政治過程論、先進産業社会の比較政治）
髙橋　準（現代社会論、社会運動論、ジェンダー論）
髙橋　有紀（刑事法、刑事政策）
田村奈保子（フランス文化、フランス文学）
照沼 かほる（アメリカ文化:文学と映画を中心に）
徳竹　剛（地域史、日本近代史）
富田　哲（民法）
中川　伸二（現代政治論、政治学）
中里　真（民法、消費者法）
新村　繁文（刑事人権法、権利擁護制度論）
西崎　伸子（アフリカ地域研究、環境社会学）
西田奈保子（行政学、都市行政論、都市・地域政策）
長谷川珠子（労働法、社会保障法）
福島　雄一（商法、保険法）
真歩仁しょうん（第二言語習得、英語教育、文学）
村上　雄一（日豪関係史）
山崎　暁彦（民法、法学方法論）

詳しい経歴はこちら

学生生活は自分たちでつくる!

学友会と学生自治

学友会学生部会執行委員長
地域と行政専攻3年
三浦 瑠歌さん
（福島県立安達高等学校出身）

私たち学友会学生部会は、行政政策学類の学生自治会として、「学生主体」をテーマに活動しています。その活動は、学生間の親睦を深めるイベントの企画、運営やオープンキャンパスのスタッフなど多種多様ですが、役員全員で協力して行っています。皆さんも私たちと一緒にこの行政政策学類をもっと良い学類にしてみませんか?

合宿ガイダンスとシニター制度

シニター2018事務局長
地域と行政専攻3年
柴田 雄登さん
（秋田県立湯沢高等学校出身）

シニターとは、行政政策学類にしかない新入生たちの大学生活をサポートする組織のことです。履修指導や交流会などを企画、運営しています。一泊二日の「合宿ガイダンス」では、ゼミでの討論会や、体を動かすウォークラリーなど楽しいイベントが盛りだくさんです! 一緒に最高の思い出を作りましょう! お待ちしています!

● 1年次:行政政策学類生の始まり! ー基礎はしっかり、幅広く

行政政策学類生としてのはじめの1年は、今後の学びの基礎をしっかり築くための時間です。英語に加え、第2外国語の授業が始まります。卒業後の進路や生活を考える時間も用意されています。特に大切なのは、2年次以降どのような専門領域に進んでも必要とされる基礎知識をしっかりと持つことです。重要な指定科目はもちろんのこと、自分の関心から遠いと思われるような科目も含め、幅広く学んで視野を広げましょう。

PICK UP!

大学で学ぶ方法の習得を目指す

スタートアップセミナー

大学での学びに「教科書」はありません。教科書なしに学ぶってどういうことでしょうか。スタートアップセミナーでは、「大学での学び=研究」の方法とスキルを学びます。メモをとり、関心のあるテーマの文献を探し出し、レジュメを作成し、調査を企画・実施し、仲間と議論する—大学での「研究」の進め方を身につけましょう。

食と農の問題からみえる日本社会とこれからの農業

佐々木ゼミ1年 山田 椋大さん
（聖光学院高等学校出身）

佐々木ゼミでは、「食と農の問題からみえる日本社会とこれからの福島」とのテーマで、現在の社会問題について議論しています。また農家さんのご協力のもと野菜栽培もしています。最終目標はみんなで育てた野菜でピザを作ること。この1年間、福島だけでなく日本の食と農の未来について考えながら、仲間と一緒に楽しく充実したゼミにしていきたいです。

大学1年生は「大人」? 現代社会におけるその基準を考える

清水ゼミ1年 吉田 陽向さん
（福島県立会津学鳳高等学校出身）

清水ゼミの一番の魅力は、先生を含めた16人のうち中国人4名、ベラルーシ人2名と国際色豊かなことです。そのため、ゼミのテーマである「大人」と「子ども」の境界についてディベートすると、その定義は国によっても異なり、日本人のみで行うディベートとは一線を画した興味深い内容となります。そのため毎週木曜日は胸を弾ませながらゼミに足を運んでいます。

文献検索、議論の進め方… 大学生の必須技能を楽しく身につける

久我ゼミ1年 及川太基さん
（宮城県石巻高等学校出身）

演習テーマは、大学での研究活動の基礎となる文献探索や議論の進め方、レポートの書き方といった必須技能を学ぶことです。最初はみんな四苦八苦でしたが、チームに分かれて議論したりすることでできるようになってきました。今だからできること、このメンバーだからできることはたくさんあります。個性豊かなメンバーと全力で楽しみ、成長していきたいと思います。

行政政策学類

あぶくま学生支援事業

入学して大学生活が始まり、新しい友達がたくさんできると、みんなで何か面白いことをやりたくなります。行政政策学類「あぶくま学生支援事業」は、そうした皆さんの気持ちを形にするお手伝いをする基金。行政政策学類の卒業生たちでつくる同窓会「阿武隈会」からの寄附金が原資となっています。持ちこまれた斬新な企画には、最大10万円の予算が準備されます。審査員の度肝を抜く、わくわくする企画が実現しています!

採用プロジェクト

台湾の学生と交流するワン! 仲良くしてニャン♥♥♥

行政政策学類1年 衣笠 彰眞さん
（宮城県白石高等学校出身）

22名のプロジェクトメンバーと台湾を訪問し、台北大学社会学部の皆さんとフィールドワークや台北市内のまち歩きを行います。台湾の食文化や歴史、同世代の学生の政治とのかかわり、先住民族のこと、地震災害などなど、事前に勉強したうえで、本当の台湾を確かめに行きます。

● 2年次:コース選択とアクティブ・ラーニング

行政政策学類には、「地域政策と法コース」と「地域社会と文化コース」の2つのコースが設置されています。地域社会の課題に取り組み、よりよい地域社会に向けた新しい道を切り開くことを目指すという行政政策学類の目指すものは共通していますが、学生は、それぞれの関心にしたがって自ら進みたいコースを選択し、2年目(3セメスター)からは、それぞれのコースで本格的な研究に取り組むことになります。コースは2つですが、現代の地域社会が抱える課題は数多く、学生一人ひとりが抱える研究テーマも無限にあります。それぞれのコースに所属しながらも、自分が抱える研究テーマに必要な講義は自由にとることができますし、関連文献の検索、フィールドワークの計画と実施、地域活動の参与観察など、自らが主体的かつ積極的にオリジナルな研究計画を立て、それぞれの研究を深めていくことになります。

「地域政策と法コース」と「地域社会と文化コース」の選択

「地域政策と法コース」では、法政策や地域行政にかかわる科目を総合的に履修し、法や行政の仕組みや運用の分析、政策形成プロセスの検討、自治体の取り組みや市民活動を知るフィールドワークなどを通じて、新しい地域づくりに取り組む力を身につけます。「地域社会と文化コース」では、社会と文化にかかわる科目を総合的に履修し、社会調査や比較地域研究、発掘調査などを通じて地域社会をより客観的に捉える手法を習得するとともに、新たな地域社会と文化の創造に向けた各地の取組みを学び、新しい地域づくりの主体となる力を身につけます。

問題探究セミナー
地域政策と法コース

「『行政する住民』の研究」

人口減少社会のなかで、「住民」が公務・公共役務・公共サービスを担うことが増えています。「住民自治」や「協働」の名のもと、無料または奉仕の形で「行政」の役割を担う住民が、どのような制度の下、いかなる現状にあるのかを、文献講読や社会調査の手法を通じて明らかにします。

問題探究セミナー
地域社会と文化コース

「地方都市の若者の世界観」

本セミナーでは、自分の身近な世界で起きていることや「他者」の存在について学びなおすために、身近な世界のフィールド調査を行ってその手法を学びます。また地方都市の若者の世界観に関する文献を通して、観察した事象を言語化するためのスキルを学びます。

卒業生と在学生にインタビュー!

卒業生

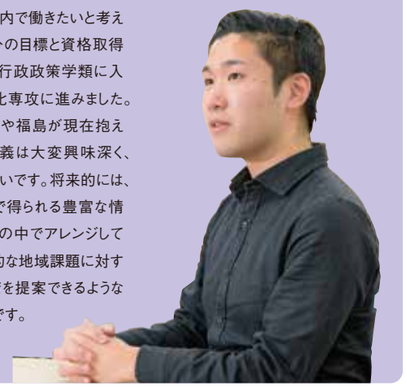
株式会社オリエンタルコンサルタンツ
岡﨑 遥香さん
(2015年度地域と行政専攻卒)

ゼミでの学びが今に大きくつながっています

私は現在、東京の総合コンサルタント会社で企画提案営業などを行なっています。顧客は主に行政組織です。大学時代、行政組織の仕組みや役割について座学で学び、地域住民や自治体職員の方々とフィールドワークで関わることができたことが、今につながりました。またその時に抱いた"行政の中から地域のために活動するのではなく、行政ができないことを支援したい"との思いは、今も仕事へのモチベーションとなっています。今後も地域住民の暮らしに役立つ提案を行っていきたいです。

在学生

社会と文化専攻4年
菅野 正樹さん
(福島県立福島東高等学校出身)



学類での学びを通じて地域の将来をより良いものに

以前から福島県内で働きたいと考えていたので、自分の目標と資格取得のことを踏まえ、行政政策学類に入学し、社会と文化専攻に進みました。実際、地域文化や福島が現在抱える問題を扱う講義は大変興味深く、重要な情報が多いです。将来的には、行政政策学類で得られる豊富な情報と経験を自分の中でアレンジして応用させ、将来的な地域課題に対する具体的な対策を提案できるような人材になりたいです。

● 3年次・4年次:学生生活の成果を形に—「卒業研究」に向けて

行政政策学類生は、卒業時に「卒業研究」を提出します。卒業研究は、いわば、4年間の学生生活の総決算。その作成に向けて、どの講義や専門演習を履修し、どのような調査やインターンシップを実施するかなど、自ら学びのプロセスを作り出していくことになります。アドバイザー教員や専門演習の仲間たちとともに、それぞれの問題意識やテーマにしたがって、オリジナルで個性あふれる卒業研究をまとめることが求められます。

センパイたちの学び

センパイ A

将来は国際連合の職員になりたくて、多文化共生社会について学んでいます。

社会と文化専攻4年 阿倍 浩佑さん
(福島県立安積黎明高等学校出身)

国際文化交流論演習(村上ゼミ)に所属
主に、オーストラリア社会や国際文化交流について学びます。

3年次に選択した科目	4年次に選択した科目
欧米文化論 / 比較地域文化論 / 言語文化論 / ほか	専門演習(ゼミ) / 憲法 / 行政法

卒論のテーマ:
日本とオーストラリアにおける「多文化主義」の比較研究

センパイ B

選挙や地方政治に関心があり、課題解決の生きた学びを経験

地域と行政専攻4年 春菜 孝明さん
(市立函館高等学校出身)

現代政治論演習(中川ゼミ)に所属
地方議会をフィールドに、地方政治を学んでいます。
議員の方と懇談を持ったり、議会活動を分析したりしています。

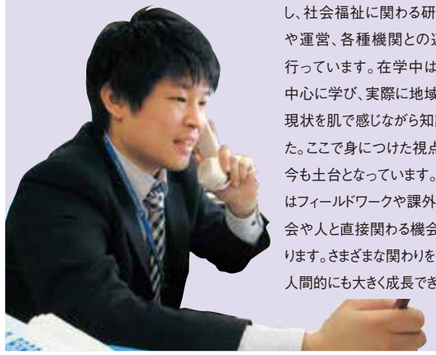
3年次に選択した科目	4年次に選択した科目
労働法 / メディア論 / 地方政治論 / ほか	国際政治論 / 専門演習(ゼミ)

卒論のテーマ:
労働組合の選挙支援とその効果

卒業生と在学生にインタビュー！

卒業生

社会福祉法人 全国社会福祉協議会
土谷 一貴さん
（2012年度地域と行政専攻卒）



社会と関わるチャンスが多く「活きた学び」が経験できます

現在は全国社会福祉協議会に勤務し、社会福祉に関わる研修会の企画や運営、各種機関との連絡・調整を行っています。在学中は地域福祉を中心に学び、実際に地域に赴くことで、現状を肌で感じながら知識を深めました。ここで身につけた視点や考え方は、今も土台となっています。福島大学にはフィールドワークや課外活動など、社会や人と直接関わる機会がたくさんあります。さまざまな関わりを経験しながら、人間的にも大きく成長できる大学です。

在学生

地域と行政専攻3年
土田 有夏さん
（福島県立福島高等学校出身）

フィールドワークを通して得られる判断力や行動力

将来的に公務員として地域に関わることを考え、行政政策学類に入学しました。経済についても興味があるので、他学類の専門分野も学べる福島大学のカリキュラムはありがたいです。現在はゼミで飯舘村にフィールドワークに行き、復興の様子を映像記録に残す活動をしています。この活動を通してコミュニケーション力や判断力、行動力が身につきました。また行政政策学類は、勉強面以外でも仲間と一緒に協力しながら活動する機会が多いので、そこで得られる達成感も多いです。

講義だけじゃない

行政政策学類 まなびのかたち

大学での学びは、「講義を聞くこと」、だけではありません。行政政策学類には、さまざまな「まなびのかたち」が用意されています。

01 法律討論会

法学専攻3年 助川 琳太郎さん
（福島県立白河高等学校出身）

行政政策学類では、法律討論会という法律問題についてのゼミ対抗の発表会が行われています。専門的な知識が必要とされる法律に関する問題を、わたしたち学生が中心となり解答を作り出していきます。難題を自力で解くこと、知識を上手く伝えること、などを学ぶためのいい経験になりました。

02 海外フィールドワーク実習

地域と行政専攻4年 渡部 嘉子さん
（福島県立小野高等学校出身）

ドイツの農村地域で進む「再生可能エネルギーによる村づくり」。その取り組みは、人口数百～数千人規模の小さな自治体が担っています。住民800人の村にホームステイしながら、住民とのサッカー交流や農家訪問などを通じて、日本における持続可能な地域づくりに何が必要かを学びました。

03 学生論文集「嶺風」

嶺風編集委員会委員長
社会と文化専攻3年 佐々木 春奈さん
（秋田県立横手高等学校出身）

行政政策学類では学生論文集「嶺風」を学生が主体となって一から作成しています。研究論文をはじめとして、エッセイや小説などジャンルを問わずさまざまな作品を掲載しています。論文の書き方や大学での学びをイメージできる良い機会かと思います。ぜひ一度手に取って読んでみてください。

地域は大学生のフィールドだ！

大学を出て、地域での活動を通じて学ぶことの多い行政政策学類。特徴あるいくつかの科目や取り組みを紹介します!

社会教育課題研究

社会と文化専攻4年 長尾 由莉菜さん
（学校法人尚志高等学校出身）

「地域づくりと住民」という視点のもと、年間を通して公民館の事業に関わっていきます。実習に取り組むなかで、自ら課題を発見する力や地域住民との接し方など、多様な方面で力をつけることができました。

ゼミでの地域活動

地域と行政専攻4年 齋藤 一騎さん
（福島県立福島西高等学校出身）

帰村後の飯舘村で農地をどう使い続けていくか、やりがいと収入のある仕事をどう作るかという課題に、大久保・外内集落と協働でとりくんでいます。集落内の農地で荏胡麻を栽培、搾油し、飯舘村の道の駅での販売を目標に活動しています。

考古学実習

社会と文化専攻4年 安藤 史章さん
（福島県立須賀川桐陽高等学校出身）

考古学実習では、考古学に関わるさまざまな作業を行います。室内作業は遺物の実測などで、屋外作業は測量や発掘です。そして、年間の実習成果を報告書にまとめ刊行しています。

行政政策学類
夜間主

「働きながら学ぶ」「学びながら働く」
—より深く、専門的に、仕事や社会とむきあうために

毎日仕事に出かけ、そのうえ大学に通って学ぶのは、確かに大変です。しかし、「働きながら学ぶ」、「学びながら働く」という大学生活は、人生のなかできっと得がたい経験になるはずです。「大学でもっと専門的な知識を得て、キャリアアップを目指したい」、「仕事のなかで直面した課題や新たなテーマにじっくり取り組んでみたい」、「幅広い教養を得て、自分の人生をもう少し客観的に見直してみたい」、「仕事と学生生活、二足の草鞋（わらじ）で社会経験を豊かにしたい」、「以前諦めてしまった大学進学を、今こそ実現したい」——理由はいろいろでも、「働きながら学びたい」、「学びながら働きたい」という願いに応えるために、行政政策学類は、夜間開講の授業を主として受講して卒業を目指す「夜間主」を開設します。夜間主で学ぶコースは、本学類が設置する「地域政策と法コース」と「地域社会と文化コース」の2つ。2年次（3セメスター）への進学時に、それぞれの関心と目標に合わせて、どちらかのコースに進みます。卒業時に得られる学位は、それぞれ「学士（法学）」（地域政策と法コース）と「学士（社会学）」（地域社会と文化コース）です。長期履修制度や放送大学の活用、昼開講の授業の受講など、行政政策学類夜間主は、「学び」と「仕事」を両立させるための柔軟なカリキュラムを用意して、みなさんの大学生活を支えます。

POINTS

1. 夜間開講の授業の履修を基本としながら、柔軟な単位取得を可能にするカリキュラム

行政政策学類の昼開講授業の履修（受講数に制限あり）、放送大学や資格試験を利用した単位取得、長期履修制度などを組み合わせ、それぞれの就労状況に合わせて柔軟に学生生活を設計可能です。

2. 入学料・授業料は半額

これまでの「現代教養コース」同様、入学料や授業料等は、半額となっています。

3. 2つのコースを選んで地域課題に学際的にアプローチ

２年次進学時（３セメスター）から、それぞれの関心と目標にしたがって、「地域政策と法コース」もしくは「地域社会と文化コース」を選択します。

4. 卒業時に得られる学位は「学士（法学）」、もしくは「学士（社会学）」

卒業時には「学士（法学）」もしくは「学士（社会学）」が授与されます。

5. アルバイト・パートのみなさんもチャレンジ可能!

年齢が22歳に達している人、もしくは、年齢が22歳に達していなくとも入試出願時に就職している人（主婦・主夫業も含みます）、または、入学後に就業しながら（労働時間が週平均20時間以上）大学に通う意思がある人は、受験・入学することができます。

※詳しくは募集要項をご確認ください。

福島大学の「夜間主コース」は大きく変わります!

福島大学は、主に夜間開講される授業を履修して学士取得を目指すコース（夜間主）として「現代教養コース」を設置し、「働きながら学ぶ」「学びながら働く」人たちに、職業人として地域の課題解決にとりくむための「知」と「スキル」の学びを提供し、これまで多くの人材を送り出してきました。2019年度の全学再編に合わせ、「夜間主コース」は大きく再編されます。これまでの「現代教養コース」に代わって、行政政策学類の2コースが、福島大学の伝統ある社会人教育の役割を担います。

旧夜間主コース構成

現代教養コース
- 文化教養モデル（人間発達文化学類）
- コミュニティ共生モデル（行政政策学類）
- 法政策モデル（行政政策学類）
- ビジネス探究モデル（経済経営学類）

▶

新しい夜間主構成

行政政策学類 夜間主
- 地域政策と法コース
- 地域社会と文化コース

行政政策学類
地域政策と法コース

主な授業科目
- 社会科学の基礎
- 現代法学論
- 自治体の政治
- 現代政治論
- 企業組織と法
- 自治体の行政
- 日常生活と民法
- ほか、指定された放送大学の科目 など

こんな人に学んでほしい
- ■ 公共部門の仕事に関心があり、法律の運用や政策形成プロセスの実務を学びたい人
- ■ 職業で法律の専門知識を必要とする方や、地域や市民の合意形成に関心のある人
- ■ まちづくりや地域の活性化に興味があり、とくに法や政策の視点から学びを深めたい人

卒業時に得られる学位　**学士（法学）**

行政政策学類
地域社会と文化コース

主な授業科目
- 社会科学の基礎
- 現代社会と計画
- 現代文化論
- 地域と文化の歴史
- 現代の地域問題
- 現代社会と計画
- 現代社会と文化
- ほか、指定された放送大学の科目 など

こんな人に学んでほしい
- ■ 農山村や地方都市の生活実態を知り、地域の持続可能性を高める施策や計画に関心のある人
- ■ 地域福祉や歴史・文化史に関心があり、公共部門やNPOなどで専門的業務に携わりたい人
- ■ 法律の運用や政策形成に社会の実態や課題をよりリアルに反映させたいと考える人

卒業時に得られる学位　**学士（社会学）**

卒業後の進路
- 就業中の職種へのフィードバック
- NPO/NGOなどのスタッフ
- 大学院進学
- 国家公務員（一般職、裁判所職員、国税専門官など）
- 地方公務員（都道府県庁、市町村職員、警察官など）
- 司法書士・行政書士などの法律専門職
- 民間企業（建設、製造、運輸、情報通信、金融、医療、マスコミ、プランナーなど）
- 法人職員（社会福祉法人、商工会議所など）
- 学芸員（博物館・埋蔵文化財）
- 社会教育関係（公民館）職員 など

取得可能な資格
- 社会教育主事（基礎資格）※1
- 学芸員※2
- 社会福祉主事（任用資格）※3

※1 必要単位を修得し、卒業後1年以上、社会教育主事補としての職に従事することが必要です。
※2 「博物館に関する科目の単位」を修得することが必要です。
※3 必要単位を修得し、卒業後、地方公務員として任用され、福祉事務所などの部署に配属される必要があります。

※カリキュラムは構想段階（平成30年4月1日現在）であり、科目名などは変更になる可能性があります。

被災地での復興活動体験を地元の活性化へ

私は将来的に大好きな地元黒磯の活性化にかかわりたいと考え、幅広い学類の授業を受けられる夜間主コースを選択しました。現在はコミュニティ共生モデルのゼミ活動で飯舘村での復興活動や地域問題の日独比較、研修などを行なっています。地域活性化にはその地域のどこに問題の核があるかを見抜く力が必要です。現場に行って五感で体験する大切さも学びました。卒業後は大学で得た知識と経験値と人とのつながりを活かしながら、黒磯を盛り上げていきたいです。

在学生　行政政策学類（現代教養コース）コミュニティ共生モデル4年　大林 裕太さん（栃木県立黒磯高等学校出身）

大学での学びを、自分の仕事にフィードバックして

私にとって学ぶことの意義は、働く場から少し距離を置いたところで社会を見つめ直し、仕事にフィードバックすることです。現代教養コース在学中は、自由な対話の中でさまざまな気づきが得られました。福島県は今、2040年頃をめどに、県内のエネルギー需要量100%以上を再生可能エネルギーで生み出すという目標を立てています。私はこの目標実現に向け、福島県をこの分野の先駆けの地とするべく、その中核的機関で海外連携の推進を図る仕事をしています。

卒業生　エネルギー・エージェンシーふくしま（公益財団法人福島県産業振興センター）　清松 美穂さん（2016年6月 現代教養コース コミュニティ共生モデル卒）